

**一般社団法人 日本脊椎脊髄病学会**  
**平成 28 年度 第 1 回プロジェクト委員会**  
**議事録**

日 時 : 平成 28 年 3 月 19 日 (土) 午後 15 時 30 分 ~ 16 時 30 分  
場 所 : パレスサイドビル・マイナビルーム 2F Y 会議室

出席者 : 山下敏彦 (委員長)、持田讓治 (アドバイザー)、田倉智之、波呂浩孝、松山幸弘、西田康太郎、海渡貴司、井上 玄

以上、8 名

欠席者 : 吉田宗人 (理事)、高橋和久 (アドバイザー)、川上 守、種市 洋、伊藤 学、宮腰尚久、今釜 史郎

以上、8 名

会の冒頭に持田理事長より、ご挨拶を頂いた。

**【 議 事 】**

1. 中間解析結果報告

海渡先生よりスライドを用いて報告があった。中間解析にむけた資料整理が 2015 年 12 月末までに第 6 期最終フォローまで完了した 217 名で行う予定であること、患者背景、臨床評価、アンケート、レセプト、投薬内容のデータ内容の入力が完了した。登録期投薬内容に記載の誤り (誤解) が多いため修正を加えたものを中間解析用最終データとすることとなった。

2. 第 14 回日本脊椎脊髄病学会での発表について

2016 年 4 月 15 日 (金) の 15 時より行われる本プロジェクトに関するパネルディスカッションの内容に関して議論した。田倉先生、厚労省・鈴木康裕技術総括審議官、山下先生、海渡先生が登壇予定。パネルの冒頭に松山先生にスライドを用いて本プロジェクトの概要に関して説明を頂く予定となった。

上記に関する各委員の意見

田倉先生：処方の変化により、健康が維持できている、という評価も可能であると考えられる。6ヶ月を1クールにした治療効果でなく、毎月など、もっと短期での治療介入効果を解析することも可能であろう。学会のみならず、社会全体に対するメッセージを発信することが望ましい。

山下先生：時間をかけた方が治療効果が上がるとは考えられるのか？（田倉先生より）治療効果が上がらず、診察時間が延びるケースもあると思われるので一概には言えない可能性もある。

松山先生：サブ解析を行った方が良いと考えるが、具体的な方法に関しては、田倉先生などの専門の先生と相談して進めるべきであろう。SNRIなどの薬剤は今回のプロジェクトに含まれておらず、今後の展開として、痛み治療の効果に関する新たなプロジェクト研究を、考えても良いかもしれない。

持田理事長より：今回、参加いただいた施設の先生方に、今回のパネルを聞いていただけるよう情報提供した方が良い。事務局より情報提供することとなった。

### 3. 次回の委員会日程に関して

日 時：平成28年4月15日（金）  
午前7時30分～午前8時50分  
場 所：幕張メッセ国際会議場 1階 会議室104  
〒261-8550 千葉県美浜区中瀬2-1  
TEL:043-296-0001(代)

文責：井上 玄